

令和 4（2022）年大腸肛門病専門医試験出題問題

各基本診療科共通問題

副交感神経系の自律神経について正しいのはどれか。

- a. 下腹神経
- b. 腰内臓神経
- c. 上下腹神経叢
- d. 骨盤内臓神経
- e. 仙骨内臓神経

正解： d

[解説]

- a.b.c.e. は誤り。
- d. 副交感神経系の神経である。

[出典]

大腸・肛門外科の要点と盲点 第 3 版（文光堂） 2014 年. p 25-27.
佐藤健次. 骨盤内自律神経の外科解剖学. 外科治療 71：387—394, 1994.

専門問題：内科・放射線科・病理科・その他（I）

疾患と治療薬の組み合わせについて誤っているのはどれか。2 つ選べ。

- a. 腸結核 — 抗 TNF α 抗体製剤
- b. クロウン病 — IL-12/23 p40 抗体製剤
- c. 潰瘍性大腸炎 — $\alpha 4\beta 7$ インテグリン抗体製剤
- d. 好酸球性胃腸炎 — 副腎皮質ステロイド
- e. 腸管型ベーチェット病 — ヤヌスキナーゼ阻害薬

正解： a, e

[解説]

クロウン病、潰瘍性大腸炎において、近年 IL-12/23p40 抗体製剤や $\alpha 4\beta 7$ インテグリン抗体製剤の保険承認がなされ治療選択肢が増えたが、ヤヌスキナーゼ阻害薬は 2022 年 1 月時点で腸管型ベーチェット病には使用適応はない。また、活動性腸結核に対して抗 TNF α 抗体製剤は使用禁忌である。好酸球性胃腸炎に対しての第一選択薬は全身性ステロイドである。ガイドラインでは好酸球性胃腸炎については「治療：実際には第一選択薬としてプレドニゾロンなどの全身作用ステロイドの経口投与が行われる。」となっている。ただし、エビデンスを得た論文はなく、CQ01 で「全身ステロイドは重症例や難治例の寛解導入のための全身ステロイド投与を推奨」「強い推奨」エビデンスの強さ「D」となっている。

[出典]

令和 2 年度改訂版 潰瘍性大腸炎・クロウン病 診断基準・治療指針
腸管ベーチェット病診療コンセンサス・ステートメント
幼児・成人好酸球性消化管疾患 診療ガイドライン

専門問題：外科（Ⅱa）

閉塞性大腸癌に対する大腸ステントの適正使用について正しいのはどれか。2つ選べ。

- a. 穿孔に対する使用は禁忌である
- b. 無症状性狭窄病変に対する有用性は高い
- c. 緩和目的の場合、生命予後を考慮し適応を決定する
- d. 直腸癌に対する留置後の化学放射線療法は禁忌である
- e. 術前腸管減圧の場合、留置後 10 日以内に根治術を行う

正解： a, c

[解説]

- a.穿孔例に対する使用は禁忌である。
- b.症状のない大腸狭窄では、逸脱や穿孔のリスクを考慮して積極的な適応とはならない。
- c.姑息的留置の場合には平均留置期間は 114 日間の長期留置が可能とされる。このため、同期間を超える長期の予後が見込める症例においては適応を慎重に考える必要がある。
- d. ステント留置前後の化学療法や放射線療法の適応は、消化管穿孔やステント逸脱の可能性があるため慎重に判断する。
- e.ステント留置後に根治術へ移行する bridge to surgery では約 2 週間の留置期間で手術を行うことが推奨される。しかし、ステント留置前に閉塞性腸炎があった場合には改善を確認する必要があるため、必ずしも 2 週間までに手術を行う必要はない。

[出典]

大腸ステント安全手技研究会「大腸ステント安全留置のためのミニガイドライン」

専門問題：肛門科（Ⅱb）

直腸・肛門機能について正しいのはどれか。2つ選べ。

- a. 健常人は直腸膨大部で便貯留を認める
- b. 肛門管最大随意収縮圧は女性の方が低い
- c. 腸骨尾骨筋は直腸肛門角の形成に関与する
- d. 内肛門括約筋弛緩反射は全身麻酔にて抑制される
- e. 肛門管最大静止圧の 70%は内肛門括約筋由来である

正解： b, e

[解説]

- a. 普通の状態では直腸に糞便はなく、直腸常習便秘でない限り便の貯留所ではない。
- b.正解
- c.恥骨直腸筋は直腸肛門角の形成に関与している
- d. 自律神経支配であり、壁進展反射は全身麻酔でも残存する。
- e.正解

[出典]

排泄リハビリテーション理論と臨床、中山書店、穴澤貞夫ら編、2009 年、p.55-62

Principles and Practice of Surgery for the Colon, Rectum, and Anus, 3rd edition. P.H. Gordon, S. Nivatvongs. Informa healthcare, 2007 p42.

肛門疾患—解剖から手術まで— 金井忠男監修 南山堂 p47 2014 年